



“悲しむ人々は幸いである。
その人たちは慰められる。”

(マタイ福音書 5章4節)



人生の歩みの中で涙を流したことの
ない人はいませんか？

イエスご自身も 涙を流されました。¹

そして、祖国を占領され、
虐げられるイスラエルの民の
涙をもご覧になりました。
イエスの言葉に慰めを見出し、
その言葉によって心も身体も
癒されたいと願う、大勢の
病人、貧しい人、やもめ、
孤児、社会から排斥された
人や罪人が、イエスのもとに
やってきました。

¹ ヨハネ11:35 ; ルカ19:41

悲しむ人々は幸いである。
その人たちは慰められる。



キアラ・ルービックはこの
み言葉についてこう語って
います。

「ここで、イエスは、いつか報わ
れる日が来るから今は諦めなさい
とはおっしゃいません。イエスの
思いは、今現在にあります。

完全な形ではないにしても、
すでにイエスのみ国はここに存在
しているからです。

それは耐えがたい死の苦しみから
復活し、死に打ち勝ったイエスの
内にあります。

悲しむ人々は幸いである。
その人たちは慰められる。



それはまた、私たちの内にもあります。
私たちの内に神はおられます。

三位一体（父と子と聖霊）は私たちの
心に住まいをお定めになられたのです。

それなら、イエスが約束された「至
福」は、すでに実現しているのです。

苦しみは残るでしょう。しかし、人生
の試練を背負う新たな力が、私たち
には与えられています。その力によっ
て私たちは、苦しんでいる他の人を助
けることもできるでしょう。そしていつ
か、その人もイエスに倣い、苦しみを
救い的手段だと理解し、受け入れるこ
とができるようになるでしょう」

² キアラ・ルービック
いのちの言葉1981年11月

悲しむ人々は幸いである。
その人たちは慰められる。

キアラ・ルーチェ・バダーノ

私たちがのような普通の女の子。
一致した世界を目指すという、私た
ちと同じ理想を精一杯生きて、わず
か18歳で完全に自己実現を果たし、
永遠に続く幸福を勝ち取りました。
彼女は今、「福者」=幸せで喜びに
満ちている、という称号で教会から
承認されています。
彼女は生前、一体どんな特別なこ
とをして、そのようなゴールにたどり
着いたのでしょくか？

14歳のときにこう書いています。

「私は、福音を新しい光のもとに
再発見しました。それまで福音を
徹底的に生きてはなかったの
で、自分が本物のクリスチャンではな
かったことに気づきました。これ
からは、この素晴らしい書物を私
の人生のただ一つの目標としたい
です。

これほど特別な
メッセージを前に、
文盲のままで
終わりたくないの
です。簡単に文字
を習えるように、
福音の言葉を
習うのも簡単
なはず。」

